

活動実績報告書

平成29年12月6日

登録番号 20170849

氏名 大政 康史

1. 活動状況（平成28年4月～平成29年12月）

○平成28年熊本地震における対応

平成28年4月の熊本地震では、震度7が二度観測されるなど、これまでに経験したことのない甚大な被害が、県中央部の多くの市町村（主に熊本森林管理署管内）で発生した。

熊本市に位置する九州森林管理局では、発災直後より、庁舎での避難民の受け入れや物資の供給などの生活支援を行うとともに、森林・林業分野においても、熊本・大分両県とも連携しつつ、被害状況の迅速な把握や市町村への支援を進めてきた。

発災後一ヶ月程経ち、民国連携の観点から、もっと効果的に市町村支援を行うべきとの議論が局の「熊本地震復興推進本部」においてなされたことから、局4名、署3名からなる「情報収集・支援プログラム策定推進チーム」を設置して対応に当たることとした。

通常業務の傍ら、チーム長として全体会議を5回開催するとともに、熊本署管内の10市町村からヒアリングを行いつつ、直ちに出来る支援（特に林道災害復旧に係る事務的支援）については、局内調整の上行うとともに、聞き取り内容については整理・記録して、あるべき支援の姿についても検討した。

まず明らかとなったことは、どの市町村林務担当職員も、震災後休む間もなく最優先で住民対応（役場内の他部署応援も含む）を行っており、猫の手も借りたい状況であることから、確実な支援に向けては、平常時からの関係構築が重要と感じた。

また、復旧推進に関する要請内容を取り纏めて（国や県に）発信するだけの余力が無い場合も多く見受けられたことから、大規模災害時には、要請を踏まえたプル型支援の前に、支援側が自主的・自立的に活動するプッシュ型での支援を行うべきであると感じた。

加えて、災害時にまず求められる林務関係の業務は、インフラ復旧に繋がる林道・治山等業務であることから、森林総合監理士であっても、この様な知識・経験の必要性を感じた。

検討結果については「中間取りまとめ」を行い、12月に局の復興推進本部に答申した。この答申を受け、局においては、現行の災害支援に関する規定等の改正を行った。

○「五木地域森林整備推進協定」への対応

熊本南部森林管理署管内の当該協定は、大規模山林所有者を中心として平成21年から始まっており、日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）森林再生事業化委員会のアドバイスなども受けつつ、共通図面の作成や路網連結などを進めてきた。

平成28年度末に、五木村（村有林）と五木村森林組合が関わる隣接森林が加わって空白地が解消されたことから、同じく隣接の「宇那川地域森林整備協定」とも一体化して約1万haの協定エリアとするとともに、一層の効率的な事業実行を図ることとし、現在、関係方面と調整を行っている。引き続き、局側の事業実行担当として調整を進めたい。

注1：1. 活動状況については、直近の過去5年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。

2. 研修の受講状況

特になし

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

【投稿】

- 「『一貫作業システム』を核とした低コスト再造林の推進について」
 杣径(日本林業経営者協会発行)平成 28 年 6 月号
- 「九州森林管理局における UAV 活用の制度・運用上などの課題」
 九州森林研究第70号(九州森林学会発行)平成 28 年 10 月
- 「森林・林業行政の市町村への支援について～熊本地震の体験から感じたこと～」
 会計検査資料(建設物価調査会発行)平成 29 年 3 月号

【講演】

- 「森林における放射性物質対策と林業再生に向けた取り組み」
 東京大学第9回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会
 (平成 26 年 6 月東京都にて、東京大学大学院農学生命科学研究科主催、
 東大 TV でのネット配信あり)
- 「九州森林管理局における主伐・再造林に向けた取り組み」
 ひむか維森の会講演会(平成 27 年 9 月宮崎市にて、ひむか維森の会主催)
- 「九州における次世代の森林整備に向けた取り組み」
 森林施業プランナー研修会(平成 28 年 3 月熊本市にて、全森連主催)
- 「九州森林管理局の低コスト化に関する取り組み」
 森林経営計画情報交換会(平成 29 年 1 月熊本市にて、全森連主催)
- 「国有林での一貫作業の現状」
 大分西部流域林業活性化センター研修会(平成 29 年 1 月大分県日田市にて、
 大分西部流域林業活性化センター主催)
- 「森林資源の循環利用に向けた九州国有林での取組」
 森林技術者講習会(平成 29 年 6 月熊本市にて、JAFEE 主催)
- 「九州国有林の取組－森林資源の持続的な循環利用に向けて－」
 林業生産技術研修会(平成 29 年 11 月熊本市にて、JAFEE ほか主催)

【発表】

- 「次世代の森林整備に向けた九州国有林での取組
 ー人工林での資源循環利用に向けてー」
 第 128 回日本森林学会大会(平成 29 年 3 月鹿児島市にて)

注2: 2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3: 活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4: この活動実績報告書は、このまま PDF 化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。